

茨城県 教頭会会報

発行者
茨城県小中学校教頭会
会長 根本重文

事務局
水戸市大場町933-1
教育プラザいばらき
電話 029-269-2711



学校防災 「避難訓練風景」

潮来市立津知小学校



教育に喜びと誇りを

茨城県小中学校教頭会

副会長 黒沢 祐士

いじめや体罰による生徒の自殺がマスコミにも大きく取り上げられ、社会問題になっていきます。また、教師の信用失墜行為が相次ぎ、教師の資質が問われています。我々教師が、本来の教育活動に喜びを見つけない時代ともいえるのではないのでしょうか。

そこで、私たち教頭は、組織のコーディネーターとして、教師が教師としての誇りをもち、働きがいのある学校づくりをリードしていかなければなりません。デیفエンス型の仕事になつてばかりはいられません。今、現場の状況にしっかりと目を向け、できることから改善をする、アタック型の仕事への転換が求められています。その際、私は教頭として、次の3つの視点を大切にしたいと思います。

一つ目は、子どもたちとふれあう場で行われる教育的な営みにどれだけ多くの時間と力を注ぐことができるかです。日々の教育活動は、毎朝、あいさつを交わし、授業ノートを見て、話をしたり遊んだりする・・・そんな平凡で人間的な行為の積み重ねです。私たち教師が最も充実を感じるときは、子どもたちとともに、それをより良質の仕

事に仕上げることができたときです。

二つ目は、学校生活の中心である授業を充実させるための教材研究や準備の時間がどれだけ確保されているかということです。職員室で、教材を交換したり、授業方法をアドバイスし合ったりする光景が、どれだけ見られるのでしょうか。本来職員室の話題の中心は子どもと授業であるはずですが。

三つ目は、様々な教育活動を通して、職員集団にどれだけ同僚性が育っているかということです。一人の悩みを学年全体の問題として受け止め解決しようとする体制があれば、たいがいの困難を乗り越えることができるはずですが。安心して本音や弱音を吐ける職員関係づくりも大切です。

学校には、子どもたちを成長させるための様々な働きがあります。それを実践するのは我々教師です。教育に喜びと誇りをもってあたる教師集団の育成を目指したいと思います。

人的・物的な条件は限られています。どんな見直しや調整、精選や再構成ができるのか、コーディネーターとしての姿勢や力が問われているのです。

論説

信頼される学校づくりをめざして

河内町立金江津中学校

齋藤寛

はじめに

本校は茨城県でも最南端に位置し、全校生徒八十九名の県南でも最も小さい中学校である。正門前には利根川が堂々と横たわり、北に筑波、西に富士を仰ぐことができる。周囲には地平線まで稲田が広がり、牛が草を食む牧歌的な風景が広がっている。対岸は成田市となり、毎年多くの生徒は千葉県の高校に進学している。

本地区は地域との結びつきが強く、生徒は保育所から中学まで同じ人間関係の中で生活している。多くの方々に温かく見守られ、素直で思いやりのある人間に成長している。また男女を問わず助け合い、元気に学校生活を送っている。

信頼される学校作り

「信頼を失った時、学校はその力を失う」という言葉がある。信頼構築の要諦は、学校理解に

方を話し合ってきた。保護者会を開き、学校の考え方を説明するように努めている。説明責任という言葉があるが、更に積極的に理解を求める「説得責任」が学校にはあると考えている。

(二) 保護者との連携

保護者との連携は一夜にしては成されない。本校に係わった先達の方々が築いてきたこれらの学校の財産を引き継ぎ強化していくことが必要である。

学校行事における共同作業、ボランティア参加など、生徒の安全確保や学習支援を目的とした協力を得ている。

(三) 地域との連携

学校の教育力だけでは生徒の育成には十分ではないことは言うまでもない。生徒指導上の問題に関しては、校種を超えての協力体制を作るほか、行政へ働きかけ、協力を仰ぎ、問題の早期解決への足掛かりにした。また、社会から学ぶことこそ生徒にとって有用であると考え、行政や地域に働きかけゲストとして積極活用している。

(四) 主体的な生徒

主体的に生きるためには自尊

感情を高めることが必要であり、小規模校の強みを生かした学校運営を行っている。

学校を変えるのは主人公たる生徒自身の力である。委員会活動は奉仕的な常時活動の他に、学校課題を生徒自身で考え解決する場としている。「身だしなみは大丈夫運動」「校内ピカピカ運動」「朝読書五分間無言」「感染症予防キャンペーン」「学力向上運動」等々委員会が活動することによって校内の雰囲気が変わってきている。

学校運営の改善

(一) 組織を生かす

学校は組織体であり、組織として機能する時こそ、教育力を発揮できるし、その姿こそ信頼を得る源となる。

今年度は、各種会議に管理職が参加し、案件については、スピード感をもって対応することにした。その際は、①組織で対応する②外部への協力を依頼する③保護者との連携を重視することを心がけている。

(二) 報告連絡相談

本校では「報告連絡相談」は個人と個人、個人と組織をつなぎ、組織を活性化する言葉である

ると言明している。年齢や経験など上下に関係なく、相談しあってこそその組織である。単なる「仲がよい・楽しい職員室」というのを超え、本校では互いに議論し切磋琢磨する姿が日常に見られる。

(三) 教員評価を生かして

教員評価の面談は、職員力を伸ばし、人間関係を深める絶好の機会である。「評価」を「価値付けと方向付け」と考え一人一人を「よく見、認め、励まし、伸ばす」ことを目標としている。

おわりに

信頼構築の道は果てしない道である。ここに書いてきたことは、私がしたことではなく皆本校職員の生徒や学校を思う強い気持ちが生体化したものである。「全職員で」とはよく耳にする言葉であるが小規模校では、正に「全職員で」が重要である。限られた時間で、一人の力でできることは元より限られている。一人一人の職員が十二分に力を発揮する組織の体制を構築することで、学校を機能させ、そのことよってのみ信頼を得られるのだと考えている。

先輩教頭から

「ふりかえって」

元行方市立三和小学校

山根 豪 禅

先輩教頭からというタイトルで原稿依頼を受けましたが、そんなこと言えるほどのことはしてこなかったし、結局のところ何を書いてよいのか困ってしまい、思いつくままに書かせてもらうことにしました。タイトルに沿わないことになってしまったことをご容赦下さい。

退職後間もなく一年になりましたが、時折勤めていた時のことを思い出します。一番の思い出は何と言っても退職一年前のことです。東日本大震災により勤務校が使用不能となり、隣接中学校での生活になり、引越越し作業や移転先での割り振られたスペースでの学習環境の確保、同居する学校間のスケジュール等の調整、退職間際の段階的統合決定による閉校式典の準備・記念誌の発行・引越しの

準備と、何やら始まりと終わりの慌ただしい一年間でした。でも移転先の中学校のすばらしい環境と先生方や生徒の皆さんの御厚意により和やかな一年間を過ごさせていただきました。児童達も中学生のお兄さんやお姉さんに遊んでもらい、同じく被災により移転してきたもう一校の児童とも触れ合うことが出来、地震という災害がもたらしたことは言え学校間交流ということでは考えれば最高の場になったのではないのでしょうか。その児童達も六年生はそのまま移転先の中学校で中学生に、下級生は被害の少なかった学区内のもう一校の小学校で三校統合の生活に入りました。退職後運動会の招待を受け統合後の子ども達の様子を見る機会がありました。やはり子ども達の適応力の高さは

には驚きました。

勤務校がこのようなことから私の退職も慌ただしいものになりました。普通なら自分の教職人生を振り返りながら退職なんということになるのですが、気がついたら退職していたという感じでした。今となつてはまあこういう退職もあかなと思つています。ただ一つ今もつてうれしく思っているのは、修了式に引き続き行つて下さったお別れの式で、予期していなかったので大変驚いたのと、まあこの忙しい時によくセッティングして下さいましたものと、今もつて感謝しています。この後春休みには引越し作業があり退職辞令をもらうまでの限られた時間内で片付くものかどうか心配していました。何とか終え退職ということになりました。

私は現在保育園に勤務していますが、退職に引き続きの勤務だったので仕事内容は変わつても今もつて現役続行中という感じがしています。仕事内容は管理運営と送迎バスの運転をし、小学校よりもより幼い子ども達と接しています。当初はその小ささに戸惑いを感じていましたが、今では一人一人の園児の姿がよく見えるようになってきました。子どもの世界も年齢に応じながら大人の世界がスライドした形で広がっているんだなというところが分かって来たり、やっぱり人間の世界でした。保育園は子どもが幼い故配慮しなければならぬことが多々あるようです。病気への抵抗力も弱い年齢故、特に一歳未満は自分の健康状態を保育士の先生に分かるように伝えることができないので、泣いてかまたは保育士の先生が生活の中で察知しなければならぬなど。数ある仕事の中でもこの仕事は、特に四歳未満児など人間が生きていく上での基本中の基本排泄・食事・睡眠など、子どもの発達状況に応じ自立出来るように持つて行くという所謂人間の基盤づくり、人類存続の基盤づくりを担うもののように感じます。四歳以上児については小学生と比べると幼いものの園の中ではお兄ちゃんお姉ちゃん的存在で、0歳か

ら五歳児を通してみると丁度小学校の一年生から六年生のようなものでかなりの発達の違いを感じます。小学校勤務時は小学一年生というともものすごく幼いものと感じましたが、保育園に入つてみると年長組の子ども達などはかなりの力を持った存在で、物事も大分分かっていて、だなどということが分かりました。そんな観察をしながら勤めている私です。

最後に自分の教頭勤務を振り返つてみて思うのは、人は変われど児童生徒の教育と学校運営ということを頭において取り組んでいけばそう的外れのことにはならないんだなということだと思います。以上で筆を置かせていただきます。教頭先生方の御健勝と教頭会の益々の御発展をお祈りしております。



郡市だより

日立市

日立市教頭会は、小学校二十五校、中学校十五校、特別支援学校一校の四十一校、四十名で構成されている。

本年度は、十八名の新会員を迎え、会長を中心に会員相互の連携と親睦を深めながら、副校長・教頭としての資質の向上と課題の克服に努めている。

今年度は、県教頭研究大会が本市開催であることから、組織作りや計画立案を年度の早い時期から行い、各種会合を重ねた。当日は県北他市会員の協力もいただき、実り多い大会となった。

本年度の主な活動

- 四月 市教頭会総会・研修会
校長・教頭合同研修会
教頭連絡協議会
五月 日立大会代表者会議
六月 日立大会企画運営会議
七月 全国教頭研究大会・東京
日立大会実行委員会
八月 日立市市教頭研修会
日立大会実行委員会
県北教頭会総会・研修会
関東教頭研究大会・群馬
日立大会実行委員会
県教頭研究大会日立大会
三月 日立市教頭研修会

ひたちなか市

ひたちなか市教頭会は小学校二十校、中学校九校の会員三十六名で構成されている。本年度は、五名の新会員を迎え会長を中心に会員相互の連携と親睦を図りながら、教頭としての資質の向上に努めている。

定例の研修会では、市教育委員会の指導をいただきながら校務運営上の課題解決に向けた研修や情報交換を行っている。

八月の学校運営研究協議会水戸教育事務所の方を講師としてお迎えして研究発表会を行い、学校運営上の諸問題を協議し、研修に努めた。

本年度の主な活動

- 十一月には、ひたちなか市教頭会が担当して中央ブロック教頭会研修会を行った。明治大学の諸富祥彦先生を講師に招き、充実した研修になった。
四月 市教頭会総会・研修会
五月～二月
市教頭会研修会
八月 市学校管理運営研究協議会
十月 県教頭会研修会
県中央ブロック小中学校教頭会研修会
三月 市教頭会研修会・役員会

那珂市

那珂市教頭会は、小学校十一校、中学校五校(副校長配置校一校)の計十六校、会員十七名で構成されている。

本年度は、新会員四名を迎えた。定例の研修会では市教育委員会指導室の指導をいただき、会員相互の連携を図りながら研鑽・親睦を深め、教頭としての資質の向上に努めている。

八月の市学校管理運営研修会では、各校の校長・教頭・教務主任等の参加のもと、教頭一名、教務主任二名が研究テーマを受けて提案発表を行った。発表後の研究協議、講師からの指導助言により、学校運営上の諸問題に関する研修を深めた。また、本年度は県教頭会研究大会において研究の成果を発表した。

本年度の主な活動

- 四月 市教頭会総会・研修会
四月～二月
市定例教頭研修会
・教育長、指導室長講話
・協議、各種情報交換
八月 市学校管理運営研修会
市教頭会夏季研修会
十月 県教頭会研究大会
中央ブロック教頭研修会
十二月 市校長会学校経営研修会

小美玉市

小美玉市教頭会は、小学校十二校、中学校四校、計十六校、会員十七名である。

本年度は、五名の新会員を迎え、会員相互の連携と親睦を深めながら教頭としての資質向上に努めている。

毎月研修会では、市教育委員会の指導をいただきながら、校務運営上の課題解決に向けた協議や情報交換を行っている。また、一人一テーマについて実践事例を持ち寄り、より具体的に課題解決の方策についての研修を行っている。

本年度の主な活動

- 八月の学校運営研究協議会は、校長・教頭・教務主任の三者合同研修会として実施し、教頭二名が実践発表を行った。
一月には新春講演会を開き、講師を招いて「学校・家庭・地域の連携」について研修した。
四月～二月
定例校務運営協議会
七月 全公教東京大会
八月 市学校運営研究協議会
十月 県教頭会日立大会
中央ブロック研修会
一月 市教頭会新春講演会

東茨城郡

東茨城郡教頭会は、小学校十七校、中学校八校の二十五校で構成されている。本年度は、新たに六名の新会員を迎え、永堀会長を中心に会員相互の連携と親睦を深めながら、教頭としての資質向上に努めている。

定例の研修会では、郡校長会のご指導をいただきながら校務運営上の実務に関する研修や情報交換を行ってきた。

また、夏季研究集会では、水戸教育事務所管理主事の先生を講師としてお迎えし、研究発表及び学校運営上の諸問題についての協議をし、研修に努めた。

本年度の主な活動

- 四月 東茨城郡教頭会総会
六月 第一回校務運営研修会
七月 第二回校務運営研修会
八月 全国国公立教頭会研究会東京大会
郡夏季研究集会
十月 第三回校務運営研修会
十一月 関東甲信越地区教頭会研究大会群馬大会
県教頭会日立大会
中央ブロック研修会
二月 第四回校務運営研修会
全国公立学校教頭会中央研修会
三月 郡教頭会役員会

鉾田市

鉾田市教頭会は、小学校二十校、中学校四校、計二十四校、会員二十五名で構成されている。

本年度は七名の新会員を迎え、会員相互の連携を図りながら、教頭としての資質向上に努めている。

定例会の研修では、市教育委員会の教育長先生からご講話を

いただいたとともに、会員相互の話し合いから、学校運営上の諸問題等について、研究協議や情報交換を行っている。また、今年度の本市教頭会の研修テーマを「業務の効率化」とし、事例発表や資料をおとしての研修を実施している。

本年度の主な活動

- 四月 市教頭会総会・研修会
- 市教頭会臨時研修会
- 五月 市教頭会研修会
- 六月 市教頭会研修会
- 七月 市教頭会研修会
- 八月 市教頭会研修会
- 九月 市教頭会研修会
- 十月 市教頭会研修会
- 十一月 市教頭会研修会
- 十二月 市教頭会研修会
- 市教頭会研究大会
- 市教頭会研修会
- 市教頭会研修会
- 市教頭会研修会
- 市教頭会研修会

行方市

行方市教頭会は、小学校十四校、中学校三校、計十七校、会員数十八名(複数教頭配置校一校)で構成されている。

本会は、行方地区教育会の解散により、本年度より会長を中心に、会員相互の連携と親睦を深めながら、教頭としての資質を向上させるためにスタートした。

定例の研修会では、市教育委員会の指導をいただきながら、校務運営上の課題解決に向けた研修や情報交換を行っている。また、本市は学校適正配置が進行中であり、統合についての具体的な方法も協議している。

八月の学校管理運営研修会は、潮来市と合同で開催し、教職に対して経験豊かな先生を講師としてお迎えし、「今、管理職に求められるもの」について講話をいただいた。

本年度の主な活動

- 四月 行方教育会教頭研修会
- 市教頭会総会・研修会
- 五月～三月 市教頭会研修会
- 七月 全国教頭研究大会
- 八月 管理運営研修会
- 十月 関東甲信越教頭研究大会
- 市教頭研究大会

石岡市

本市教頭会は、小学校一九校、中学校八校の会員二十九名で組織している。本年度は五名の新会員を迎え、会長

を中心に連携と親睦を深めながら、資質の向上に努めている。

本年度は、本市が事務局となり、県南ブロック教頭会研修会を開催した。講演講師に東京五輪、メキシコ五輪ウエートリフティング金メダリストの三宅義信氏をお招きし、「オリンピックにかけた人生、限界への挑戦」という演題のもと、実のある研修を行うことができた。

本市では、学力向上や小中連携など、さまざまな学校運営上の課題があることから、今後さらに各校間の連携を深めていきたい。

本年度の主な活動

- 四月～七月 市教頭会総会(四月)
- 市定例教頭研修会
- 七月 全国教頭大会(東京)
- 八月 市三者合同研修会
- 市三者合同研修会(石岡)
- 市定例教頭研修会
- 十月 市定例教頭研修会
- 十一月 市定例教頭研修会
- 十二月～三月 市定例教頭研修会

稲敷市

稲敷市教頭会は、小学校十六名、中学校五名の会員二十一名で構成されている。

本年度は、四名の新会員を迎え、「一人一人を生かす創意と活力に満ちた学校づくり」をテーマに、教頭としての資質向上に努めている。

定例の研修会では、市教育委員会教育長の講話や指導室の指導をいただきながら、学校運営上の諸問題等について、「レポートを持ち寄り、研鑽を積んでいく」。

本年度の主な活動

- 四月 市教頭会総会・研修会
- 五月 市教頭会研修会
- 市教頭会総会・研修会
- 六月 市教頭会研修会
- 七月 市教頭会研修会
- 八月 市教頭会研修会
- 三者合同夏季研修会
- 十月 市教頭会研修会
- 十一月 市教頭会研修会
- 市教頭会日立大会
- 市教頭会研修会
- 市教頭会研修会
- 市教頭会研修会
- 市教頭会研修会

北相馬郡

北相馬郡教頭会は、利根町一町の小学校三校、中学校一校の会員四名で構成されている。

本年度は、「生きる力をはぐくむ活力ある学校運営をめざして」をテーマに、和気藹々の雰囲気の中で、会員相互の連携・協力を図りながら教頭としての資質の向上に努めている。

人数が少ないことから、一人ひとりにかかる役割分担が多いが、月定例の研修会では各校の校長先生の講話や教育委員会指導室長の指導を戴きながら、学校運営上の課題解決に向けた研修や情報交換に努めた。

本年度の主な活動

- 四月 郡教頭会総会・研修会
- 五月 教頭会定例研修会
- 六月 教頭会定例研修会
- 七月 教頭会定例研修会
- 全国教頭会東京大会
- 八月 学校運営研究協議会
- 九月 教頭会定例研修会
- 十月 教頭会定例研修会
- 十一月 教頭会定例研修会
- 市教頭会定例研修会
- 市教頭会定例研修会
- 市教頭会定例研修会
- 市教頭会定例研修会
- 市教頭会定例研修会
- 市教頭会定例研修会

下妻市

下妻市教頭会は、小学校十校、中学校三校（複数教頭配置校一校）の計十三校、会員十四名で構成されている。

本年度は、新たに四名の新会員を迎え、会長を中心に会員相互の連携を図りながら研鑽と親睦を深め、教頭としての資質の向上に努めている。

定例の研修会では、市教育委員会や市校長会のご指導をいただきながら、校務運営上の課題解決に向けた研修や情報交換を行っている。

八月の市学校運営研究協議会では、校長・教頭・教務主任・中堅教員の四者合同研修会とし、県西教育事務所の方先生方を講師として迎え、教頭一名が実践発表を行い、学校運営上の諸問題について研究協議を行った。

本年度の主な活動

四月 市教頭会総会・研修会
四月～二月

市定例教頭研修会

・教育委員会からの指導

・提案発表

・協議、情報交換

八月 市学校運営研究協議会

県西ブロック小中学校教頭研修会

頭研修会

上月 県教頭会研究大会

結城郡

八千代町教頭会は、小学校五校、中学校二校の計七校、会員七名で構成されている。本年度は四名の新会員を迎え、会長を中心に会員相互の連携と親睦を図りながら、教頭としての資質向上に努めている。

毎月八名の研修会では、町教育委員会の指導をいただきながら、校務運営上の課題解決に向けた研修や情報交換を行っている。

八月の町学校運営研修会では、校長・教頭・教務主任・中堅教員の参加のもと実践研究発表と研究協議を行い研修を深めた。また、本年度は県西ブロック教頭研修会（八月開催）の担当市町村として事前の準備や当日の運営にあたった。

本年度の主な活動

四月～二月

町定例教頭研修会

・町教委からの連絡・指導

・協議及び情報交換

七月 全国国公立学校教頭会研究大会（東京）

町学校運営研修会

八月 県西ブロック教頭研修会

十月 関東甲信越地区教頭会研究大会（群馬）

三月 県教頭会研究大会（日立）

まとめと次年度の計画



進んで学び

心豊かでたくましい

谷原小の子

つくばみらい市立谷原小学校



平成十一年度から米作り体験を開始した。五年生が種まきと育苗を担当し、学校田を利用して全校児童で田植え、稲刈りを行っている。収穫した米は「やわらっ子まつり」でカレーライスを作り、保護者や地域の人々を招き、みんなでおいしく食べる。また、夏にはゴーヤを栽培し、グリーンカーテンを作成、学校農園にはホテル観賞用のピオトープを設けている。二年前から太陽光パネルが設置され、子どもたちの環境に対する関心は高い。

本校は、つくばみらい市のほぼ中央に位置し、谷和原三万石の美田に囲まれた農村地帯にある。一方で、TX（つくばエクスプレス）の開通によりみらい平駅周辺の都市開発地区の一部を学区に加え、児童が急増している。現在は、児童数百九十二名、学級数八クラスである。

大正四年に創立された西樋戸尋常小学校を母体に七年後、現在地に校舎を構え、鹿島尋常小学校としてスタートを切った。「かしこく やさしく たくましく」を校訓にし、今年度のスローガンには、「当たり前前」とが当たり前前にできる学校・児童・教職員」を掲げている。

自分の考えを持ち、思いやりがある、粘り強くがんばる子の育成に力を注ぐ。自分の考えを持つ児童の育成では、漢字・計算力テストの実施や読書の奨励、学校行事への主体的な取組など、基本的な学習習慣の確立と表現力の育成に取り組む。思いやりの育成では、道徳授業の充実や学年を超えたふれあい活動、伊奈特別支援学校との交流などを通じ、豊かな心を育てている。粘り強く頑張る子の育成では、ドッジボールやマラソン、なわとび大会など時期に応じた業間運動を行うほか、朝の読書活動や継続的な自主学習を推進している。

地域交流を大切にし、地域に伝わる伝統芸能（西丸山折袴囃子）の伝承に取り組むなど地域の行事にも積極的に参加している。



こうした情報をブログでほぼ毎日発信するなど、開かれた学校づくりをめざしている。



創立一〇一年目の 地域の学校

つくば市立九重小学校

本校、つくば市立九重小学校は旧桜村に位置し、筑波研究学園都市に隣接している。しかし学園都市が建設されるより遙か昔から集落があり、歴史的にも

奈良時代の郡役所と共に建てられていた九重廃寺が学区内にあったという調査結果もある。科学の街のすぐ隣にありながら、緑も多く、田畑が広がるのどかな風景に恵まれた環境である。つくば市の推し進めている小中一貫教育においては、本校は桜中学校区の「さくら学園」として、小中学校間の乗り入れ授業や他の小学校二校との合同宿泊学習、あいさつ運動等を行っている。



今年度現在、全校児童数は二一七名、普通学級八クラス、特別支援学級一クラスの小規模校

である。古い地域であるため、祖父母の代から本校に通っていたという家庭も少なくない。そういう家庭や地域の環境の中で子ども達は大事に育てられていて、穏やかで子どもらしい児童が多い。反面、場に応じた言動が苦手であるなどの課題も見られる。そういう課題に対して、今年度はできるだけ多くの場面でチーム対応を取れるよう工夫している。また生活習慣の向上のために毎月九のつく日を「ノーテレビノーゲームデー」十九日を「パーフェクト給食の日」として家庭の協力も得て推進している。

昨年度、本校は創立一〇〇周年を迎えた。本校卒業生の歴代PTA会長を中心に実行委員会を組織し、記念式典、記念誌発行、記念の祭りの三つを行うことにした。そのうちの記念の祭りについては、創立一〇〇周年を九重地区の祭典と捉え、学区内の各地区で夏祭りに行われているお囃子などを披露し合う場とした。夏祭りは毎年同日に行

われていて他の地区のお囃子などに触れる機会がなかったからである。当日は九月下旬の祭日であったが保護者、卒業生、地区の方々も来校し、楽しい一日となった。今日も子どもたちの笑い声が、創立一〇一年目の学校に響いている。



創造性と実践力に富む、 心豊かな児童の育成を めざして

土浦市立下高津小学校

本校は今年で創立百三十六周年を迎える歴史と伝統のある学校であり、児童数七百三十四名の大規模校でもある。位置的には、土浦市の中央部の高台にあり、北に筑波山、東に霞ヶ浦を臨む絶好のロケーションに立地している。土浦市の花火大会の際は、敷地の一部が見学場所となる。

本校では、「確かな学力と思いやりのある児童を育む学校づくり」を目指した教育活動を日々実践し、何事にもチームで取り組むことを基本としている。今年度の校内研修のテーマは、「算数的な表現力を身に付け、自分の考えを深めながら伝えあうことのできる児童の育成」であるが、授業研究では、学年の教員全員で指導案を作成し、いくつかの学級で実施して手直しをしてから授業研究に臨むようにしている。研究協議についても、ワークショップ型の話し合いにより、活発な協議が展開されている。実践後は、検証・総括も大切にしている。

今年度は「本物に触れる」を合い言葉に、文化庁主催の「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」に申し込んだところ、幸運なことに、山形交響楽団の演奏を本校の体育館で聞くことができた。五十名を越すフルオーケストラで演奏していただいた校歌は、児童にとって一生の思い出になったにちがいない。

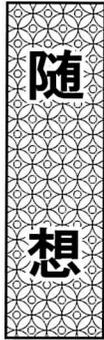


一月には「体育学習アドバイザー派遣事業」で、アトラントオリンピック体操日本代表の田中光先生（流通経済大学教授）に、体育の授業を行っていた。二時間の授業だったので、

三・四・六年のみだったが、時間いっぱい体を動かし、楽しく体力づくりをするプログラムにたいへん感心させられた。



これからも、われわれ教職員一同、一体となつて下小の子ども達の成長を支えていく所存である。



思いやり

東海村立石神小学校

川前昇

心を育てる道徳誌「ニューモラル」に株式会社「イエローハット」の創設者、鍵山秀三郎さんのことが掲載されていました。鍵山秀三郎さんは選挙事務所に差し入れに行くときは、閉店間際にスーパーマーケットへ行き、売れ残っているパンやおにぎりを買うそうです。

閉店間際に行けば、パンやおにぎりを買おうと思っていた他のお客さんの迷惑にならないし、スーパーマーケットでも、売れ残ってしまうところを買っていただけるのでありがたいと言うわけです。さらに、差し入れした選挙事務所の方々にも喜ばれると言うことで、関係するすべての人に喜ばれると言うわけです。

私は、この話を読んで素晴らしい思いやりだなと感心しました。自分の生活を振り返ったとき周りのことをこんなに考えたことは無かったと思います。それどころか、いつも思いやりや考えがたりなかったと反省しています。この鍵山さんを見習つ

て生活して行きたいと思えます。

未だ木鶏たり得ず

古河市立三和東中学校
鈴木 克典

我が家には、飼い始めて八年になる犬「ラッキー」がいる。長年一緒にいると性格もよくわかる。見知らぬ人が近づくと

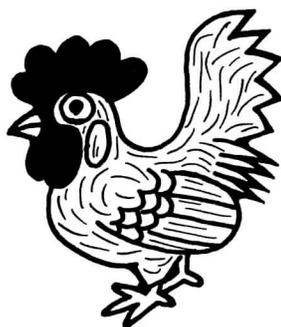
たらと吠えるが、どうやら虚勢をはっているように見える。私は、この様子を見てみると、「未だ木鶏たり得ず」という言葉を思い出す。

「木鶏」とは、木製のにわとり。真に強い者は敵に対して少しも動じないことのとたとえである。

前人未踏の六十九連勝を続けていた昭和の大横綱双葉山が、安藝ノ海に敗れた。その日の夜、双葉山が知人に充てて電報を打ったということは有名である。「未だ木鶏たり得ず」木で作ったにわたりのように無心の境地に至れなかった自分を戒め、さらなる精進を誓った言

葉である。連勝がストップしても全く動じなかった土俵態度と、この電文に込められた土俵への思いに敬服する。

ところで犬のことであるが、もしかすると飼い主に似ているのかもしれない。私も何事にも動じない木鶏を目指したい。



編集後記

会報一六一号は、県東地区が担当させていただきました。

お忙しいなか、原稿をお寄せいただきました。ありがとうございます。お陰様で、無事に発行することが出来ました。ご協力に感謝申し上げます。